

一般質問

議員 7人

町政を問う

12月定例会の一般質問は6日および7日に行われました。
 紙面の都合により要約してお伝えします。
 なお、詳しい内容は吉岡町図書館に備えてある会議録で確認できます。
 また、平成21年第1回定例会以降の会議録は、吉岡町ホームページでもご覧になれます。

一般質問は議員の日常活動と調査・研究、住民の声や自身の考えをもとに、町長や教育長などの方針を問うものです。吉岡町では、質問および答弁をあわせて、1人60分の持ち時間があります。

■富岡 大志議員（8ページ）

1. 障害者差別解消法について
2. 保健センターの保健師について
3. 不審者情報・青パト・ドライブレコーダーについて

■金谷 康弘議員（12ページ）

1. 文化関連
2. 防災関連
3. 教育関連
4. 男女共同参画関連

■竹内 憲明議員（9ページ）

1. 町における認知症対策について
2. 地球温暖化について

■五十嵐 善一議員（13ページ）

1. 防災減災対策について
2. 安全安心なまちづくりについて
3. 未来を見据えたまちづくりについて

■柴崎 徳一郎議員（10ページ）

1. 地域包括ケアシステム構築への道筋は
2. 庁内LAN活用による行政事務省力化推進は
3. スポーツで子どもらに希望を
4. 地域課題について

■小池 春雄議員（14ページ）

1. スラグ碎石の撤去
2. 子育て支援策
3. 公有施設手洗いの洋式化率
4. 災害時の備え

■平形 薫議員（11ページ）

1. ふるさと納税について
2. 町ホームページリニューアルについて

インターネット配信中です

本会議の様子を生中継、録画でも配信。

アクセス方法は

吉岡町議会

検索



保健師の増員が望まれる（保健センター）



富岡大志 議員

車椅子での議会傍聴を

答 モニターでの議会傍聴に向け予算計上

問 障害者差別解消法が施行。行政機関の障がい者への「合理的配慮」は、法的義務

となつた。車椅子での議会傍聴など、まちの施設・設備面での今後の対応方針は。

答 財務課長 障がい者の権利や意思を尊重しながら、どのような合理的配慮が実現可能か、検討していく

たい。音声読み上げソフト用「広報よしおか」のページも検討中。また、「声の広報まえばし」は参考事例として、今後検討していきたい。

椅子で入場可能にするには、大規模な改修が必要。実現可能な対策で、委員会室でモニターによる傍聴ができるよう、今回の補正予算に費用を計上。

問 広報の音声化、「声の広報」発行の検討を。

答 総務政策課長 現在、吉岡町ホームページをリニューアル中。障がい者への対応が充実するので、まず完成後の状況を確認し

増に、保健師配置人数が追いついていない状況が見受けられる。子育て支援をはじめとする各事業の充実を図り、医療費の軽減と、住民の健康推進を図るため、保健センターの保健師のさらなる増員が必要ではないか。

問 続く不審者事案。

答 町長 9月より不審者事案が相次ぎ、大変心配している。パトロール時間をずらすなど対応。関係団体、関係機関と連携協力し、防犯カメラの設置など、子どもたちの安全確保

答 町長 保健師の免許を有する人が業務にかかることにより、より的確な町民へ

の支援ができるものと考
える。それも考慮し
た中で採用を検討した
い。

た中で採用を検討した
い。

狙われるのは、私たちの子ども

大変心配、安全確保に努めたい

に努めていきたい。

問 「狙われるのは、私たちの子どもです」ということに、町長はどう思うか。

に努めていきたい。
た中で採用を検討した
い。

答 町長 保健師の免許を有する人が業務にかかることにより、より的確な町民へ

の支援ができるものと考
える。それも考慮し
た中で採用を検討した
い。



竹内憲明 議員

高齢者の「徘徊対策」にGPSの活用を

来年度事業で検討したい



「元気になるカフェ」は、認知症の方やご家族、子どもから大人まで誰でも気軽に集い、自由におしゃべりができる場所です。

問 高齢者の徘徊対策にGPSの活用は。靴底にGPS発信機を埋め込むタイプなら心配に配慮できるのでは。

答 健康福祉課長 来 年度事業に向け、靴底タイプの検討をしたい。

問 高齢者の運転免許証の自主返納者支援事業の内容は。

答 町民生活課長 返 納時満65歳以上の納で、当事業の助成を受けていない人で、返

納から1年以内であること。支援内容として、群馬県共通バスカードの交付5千円分、運転経歴証明書の交付手数料千円の全額支援。

問 再生可能エネルギーの事業展開は。

答 総務政策課長 まちでは、役場庁舎屋上に太陽光発電システムを設置。一般家庭を対象に、住宅用太陽光発電システム設置整備事業補助金を実施している。

問 公用車にCO₂低排出のハイブリット車を導入できないか。

答 町長 買いかえる必要が生じた場合には、環境負荷の少ない車を導入していきたい。

認知症サポーターは1200人以上 今後の認知症対策は

問 認知症サポーターの活動は。

答 健康福祉課長 まちでは、デイサービスセンターの一角を

をしてもらっている。

問 まちの地球温暖化対策は。

答 町民生活課長 まちでは住宅用太陽光発電システムの設置に、1キロワット当たり2万5千円、限度額10万円の補助金を交付

している。これまでに、295件の申請に対し補助金を出している。費用対効果を慎重に検討していく必要がある。

ことが可能。しかし、費用対効果を慎重に検討していく必要がある。

問 認知症サポーターの活動は。

答 健康福祉課長 まちでは、デイサービスセンターの一角を借用して、認知症カフェ「元気になるカフェ」を開設していく、認知症サポーターにも協力

も、文化センター学習棟2部屋の冷暖房を地中熱利用に切りかえる

